

記者発表日

平成29年9月5日

■同発時表先：合同庁舎記者クラブ 岡山県政記者クラブ
広島県政記者クラブ 岡山市政記者クラブ
中国地方建設記者クラブ 鳥取県政記者クラブ

中国地方建設新技術普及促進顕彰技術発表会を開催します

中国地域における建設新技術の動向を踏まえ、開発者や施工者、行政と大学等を繋ぎ、双方向に建設新技術の理解を深め、情報を交換することで、産学官相互の技術力向上に寄与することを目指して、標記の発表会を開催します。

下記日程で、建設現場での建設新技術の普及促進を図るため、現場で工夫して活用した技術者や数多く使用された技術を顕彰するため、中国地方建設新技術普及促進顕彰実行委員会が、活用賞、普及賞、生産性向上特別賞を選定し、表彰すると共に技術発表会を実施します。

特別講演では、国土交通省が進めている、ICTや3次元データ活用等により、生産性の向上や魅力ある建設現場の実現を目指すi-Constructionに着目して、【仮題】i-Pavementの現状と方向性（ITC舗装工）や【仮題】i-Bridgeの現状と方向性（橋梁分野における生産性向上）の話題を予定しています。

■日 時：平成29年11月21日（火） 13:00～

■場 所：中国技術事務所 3階講堂

■内 容：下記のとおり

■備 考：詳細については、添付資料を参照して下さい。

内容について取材を希望される場合は、事前に問合せ先までご連絡下さい。

プログラム(予定)

- 13:00～ ・開会挨拶
- 13:05～ ・中国地方建設新技術普及促進顕彰について
・表彰状 授与
- 13:15～ ・特別講演1 【仮題】i-Pavementの現状と方向性
(基調報告等) ・特別講演2 【仮題】i-Bridgeの現状と方向性
・中国地方整備局における新技術活用の現状と課題
- 14:25～ ・活用賞 用吉電線共同溝第2工事について
(各賞発表) ・普及賞 iNDr搭載極低騒音型バックホウについて
・生産性向上特別賞 天神川今津床止補修工事について
- 15:55～ ・閉会挨拶

問 合 せ 先

中国地方
建設新技術普及促進顕彰実行委員会

国土交通省 中国地方整備局 中国技術事務所

総括技術情報管理官 森山 博
建設専門官 森脇広志

住 所： 広島県広島市安芸区船越南2丁目8番1号

電 話： 082-822-2340(代表)

URL：<http://www.cgr.mlit.go.jp/ctc/>



国土交通省

中国地方建設新技術普及促進顕彰技術発表会

本技術発表会は、中国地域における建設新技術の動向を踏まえ、開発者や施工者、行政と大学等を繋ぎ、双方向に建設新技術の理解を深め、情報を交換することで、産学官相互の技術力向上に寄与することを目的としています。

主催：中国地方建設新技術普及促進顕彰実行委員会

(日本建設業連合会中国支部、建設コンサルタンツ協会中国支部、日本道路建設業協会中国支部、日本橋梁建設協会中国事務所、プレストレスト・コンクリート建設業協会中国支部、先端建設技術センター普及振興部、中国地方整備局中国技術事務所)

日時：平成29年11月21日(火)

13:00～(受付12:30～)

会場：中国技術事務所 3階講堂

(広島県広島市安芸区船越南2-8-1)

定員：80名(先着順で定員になり次第〆切ります。)

申し込み方法

聴講をご希望の方は、FAXで申し込みください。

申し込み期限

平成29年11月7日

聴講費

無料

継続教育

CPD認定プログラム

(一社)建設コンサルタンツ協会CPDプログラム

CPDS認定プログラム

(一社)全国土木施工管理技士連合会CPDSプログラム

上記の認定を受ける予定。

認定番号、単位数、ユニット数等は、それぞれのHPをご確認願います。

プログラム(予定)

- 13:00～ 開会挨拶
- 13:05～ 中国地方建設新技術普及促進顕彰について
- 表彰状 授与
- 13:15～ 特別講演 1
- (基調報告等) 【仮題】i-Pavementの現状と方向性
- 特別講演 2
- 【仮題】i-Bridgeの現状と方向性
- 中国地方整備局における新技術活用の現状と課題
- 14:25～ 活用賞
- (各賞発表) 用吉電線共同溝第2工事について
- 普及賞
- iNdr搭載極低音型バックホウについて
- 生産性向上特別賞
- 天神川今津床止補修工事について
- 15:55～ 閉会挨拶

交通のご案内



バスの場合

広島駅12番乗り場から
海田市方面行き(約20分乗車)

バスセンター5番乗り場から
海田市方面行き(約25分乗車)

入川バス停下車 東へ徒歩5分

JRの場合

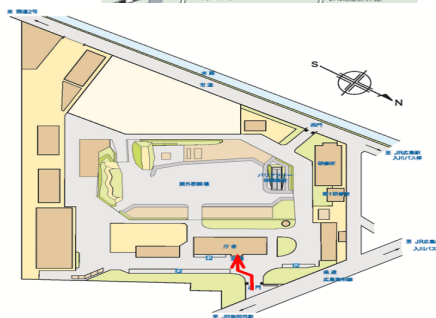
広島駅から 山陽本線(上り)
または
呉線(上り)

(約10分乗車)

JR海田市下車 西へ徒歩15分

問合せ及び申し込み先：
中国技術事務所 品質調査課
TEL：082-822-2340

駐車場はありませんので、公共交通機関でご来場下さい。



送り状は不要です。このまま送信して下さい。

中国地方建設新技術普及促進顕彰 実行委員会 事務局 宛
(中国技術事務所 品質調査課)

FAX 082-823-1402

中国地方建設新技術普及促進顕彰技術発表会 参加申込書

所属(会社名等)	役職	氏名	連絡先	電話番号

* 平成29年11月7日(火)までにお申し込み下さい。受付は先着順で、定員に達した時点で受付を終了します(定員に達して受付出来ない場合のみ連絡します)。

* ご記入頂いた個人情報については、本発表会に関する事務処理のみに使用し、取扱いについては法令に従い適正に管理します。

各賞の概要

活用賞

用吉電線共同溝第2工事 監理技術者 西崎 真広 氏（大森建設工業(株)）
選定理由:平成28年度中国地方整備局管内で実施された直轄工事において、16技術の活用を行った。

工事概要:本工事は、国道30号岡山県玉野市用吉地内において、電線共同溝を375 mにわたり整備もので、開削土工、管路工、プレキャストボックス工、道路付属施設工、舗装工、区画線工等を施工したものである。

活用新技術一覧(活用賞)

活用状況:本工事で活用された新技術は16技術であり、病院や老人福祉施設が近接し騒音等に配慮が必要であり、交差点対策や夜間工事対策等のために新技術が活用されていた。

活用のポイントは大きく3つあり、夜間工事対策で仮設系照明や看板などを多用したこと、騒音対策として施工機械等に新技術を適用したこと、交差点対策等で杭基礎に工夫を加えたことである。

NETIS登録番号	技術名
1 HR-110020-VR	マイルドパッチ
2 CG-100015-VE	iNDr搭載極低騒音型バックホウ
3 TH-120009-VE	吸音パネル
4 TH-110001-VE	高打撃型ランマー
5 TH-110022-VR	静音型プレートコンパクタ
6 TH-090016-V	超低騒音仕様油圧ブレーカを用いた解体・掘削工法
7 KK-100065-VR	AIS機能付バックホウ
8 CG-100021-VR	高出力LEDを光源とする投光機
9 KK-070008-VE	抵抗板付鋼製杭基礎(ポールアンカー100型)
10 KK-110043-VE	スプレnderX
11 TH-100014-V	環境配慮型工事用マーカライトECO
12 CB-080028-VE	とまるくん(普通車用)・(大型車用)
13 KT-120030-A	プリズム高輝度反射シート付フレキシブルポリ塩化ビニルコーン
14 KT-110051-V	ソララ電波セレナイト
15 TH-070005-VE	カプセルプリズム型高輝度路上工事用標示板(工事看板)
16 CG-090015-VR	Solarライトプレート

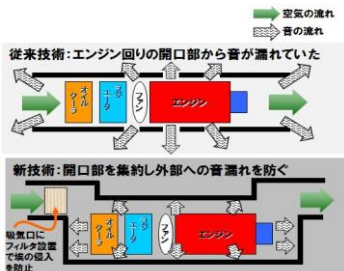
普及賞

iNDr搭載極低騒音型バックホウ(CG-100015-VE) コベルコ建機(株)

選定理由:平成28年度中国地方整備局管内で実施された直轄工事において、28工事において新技術として採用された。過年度受賞技術及び10年経過した技術を除き、最も多く利用されたものである。

技術概要:iNDr搭載極低騒音型バックホウは、エンジンルームからの運転音をマシン内部に閉じ込め、同時に、マシン外部からの埃の進入を防ぐ冷却システムiNDr(Integrated Noise & Dust Reduction Cooling System)を搭載した機械で、低騒音性に優れ、施工時の安全性確保や周辺環境への配慮等に幅広く対応できるバックホウです(写真参照)。

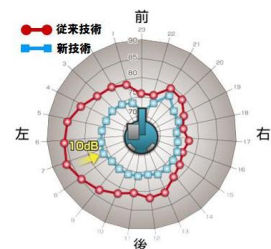
従来は、冷却効率向上のため、冷却機器(ラジエータ、オイルクーラ、インタークーラ等)を開口構造内に設置していたため、放熱性が良く、また、外気吸気効率にも優れていましたが、反面、開口のためエンジン音やファン回転音等の騒音が外部に漏れやすく、また、外気と共に埃も同時に吸い込むため、冷却性能の低下と、冷却機器のメンテナンスの手間が多く必要でした。中国地方整備局管内の活用も過去3年毎年15件程度の活用があり、平成28年度は28件の工事で活用されました。



技術の原理(イメージ)



受賞技術搭載機械の例



騒音の低減状況

生産性向上特別賞

工事名:天神川今津床止補修工事 監理技術者 下山 博 氏 ((株)井中組)
選定理由:平成28年度中国地方整備局管内で実施された直轄工事(ICT活用工事)において、新技術を最も多く活用を行った。

工事概要:本工事は、天神川水系天神川(6k300右岸)における、今津堰下流の洗掘対策の工事を行うもので、護床ブロック工、堰本体コンクリートの補修及び下流河床の掘削(ICT活用工事として1,500m³)等を実施した。

活用状況:本工事で活用された新技術は7技術であり、河床掘削に、ICT工事のための新技術が活用され、その他、護岸ブロックの製作・据付のためのコンクリート関連新技術、工事区域に接続して学校があるため騒音対策用の新技術等が活用されていました。

ICTの活用は、堰下流に堆積した土砂をICTバックホウにより規定の縦断勾配に切り下げていくものでした。発注側も受注側も経験がない工事でしたが良好な仕上がりとなりました。

活用新技術一覧(生産性向上特別賞)

	NETIS登録番号	技術名
1	CG-060005-VG	アクアマットSタイプ
2	KT-090041-VE	生分解性コンクリート型枠離型剤「レジナーVO-1」
3	CG-100015-VE	iNDr搭載極低騒音型バックホウ
4	KT-090071-VE	オイルフェンス一体型発電機
5	KT-070067-VE	断熱養生シートによる断熱養生工法
6	KT-140091-VE	インテリジェントマシンコントロール油圧ショベル
7	CB-100037-VE	軽トラック積載対応型屋外可搬式トイレユニット